

「主イエスのエルサレム入城」四福音書比較

マタイ 21 章	マルコ 11 章	ルカ 19 章	ヨハネ 12 章
<p>◆エルサレムに迎えられる</p> <p>1 一行がエルサレムに近づいて、オリーブ山沿いのベトファゲに来たとき、イエスは二人の弟子を使いに出そうとして、</p> <p>2 言われた。 「向こうの村へ行きなさい。するとすぐ、ろばが見つからないで、一緒に子ろばのいるのが見つかる。それをほどこいて、わたしのところに引いて来なさい。」</p> <p>3 もし、だれかが何か言ったら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。すぐ渡してくれる。」</p> <p>4 それは、預言者を通して言われていたことが実現するためであった。</p> <p>5 「シオンの娘に告げよ。『見よ、お前の王がお前のところにおいでになる、柔和な方で、ろばに乗り、荷を負うろばの子、子ろばに乗って。』」</p>	<p>◆エルサレムに迎えられる</p> <p>1 一行がエルサレムに近づいて、オリーブ山のふもとにあるベトファゲとベタニアにさしかかったとき、イエスは二人の弟子を使いに出そうとして、</p> <p>2 言われた。 「向こうの村へ行きなさい。村に入るとすぐ、まだだれも乗ったことのない子ろばのつないであるのが見つかる。それをほどこいて、連れて来なさい。」</p> <p>3 もし、だれかが、『なぜ、そんなことをするのか』と言ったら、『主がお入り用なのです。すぐここにお返しになります』と言いなさい。」</p>	<p>◆エルサレムに迎えられる</p> <p>28 イエスはこのように話してから、先に立って進み、エルサレムに上って行かれた。</p> <p>29 そして、「オリーブ畑」と呼ばれる山のふもとにあるベトファゲとベタニアに近づいたとき、二人の弟子を使いに出そうとして、</p> <p>30 言われた。 「向こうの村へ行きなさい。そこに入ると、まだだれも乗ったことのない子ろばのつないであるのが見つかる。それをほどこいて、引いて来なさい。」</p> <p>31 もし、だれかが、『なぜほどこのか』と尋ねたら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。」</p>	<p>◆エルサレムに迎えられる</p>
<p>6 弟子たちは行って、イエスが命じられたとおりにし、</p> <p>7 ろばと子ろばを引いて来て、その上に服をかけたとき、イエスはそれにお乗りになった。</p>	<p>4 二人は、出かけて行くと、表通りの戸口に子ろばのつないであるのを見つけたので、それをほどこいた。</p> <p>5 すると、そこに居合わせたある人々が、「その子ろばをほどこいてどうするのか」と言った。</p> <p>6 二人が、イエスの言われたとおりに話すと、許してくれた。</p> <p>7 二人が子ろばを連れてイエスのところに戻って来て、その上に自分の服をかけたとき、イエスはそれにお乗りになった。</p>	<p>32 使いに出された者たちが出かけて行くと、言われたとおりにした。</p> <p>33 子ろばの子をほどこいていると、その持ち主たちが、「なぜ、子ろばをほどこのか」と言った。</p> <p>34 二人は、「主がお入り用なのです」と言った。</p> <p>35 そして、子ろばをイエスのところに引いて来て、その上に自分の服をかけたとき、イエスをお乗せした。</p>	
<p>8 大勢の群衆が自分の服を道に敷き、また、ほかの人々は木の枝を切って道に敷いた。</p> <p>9 そして群衆は、イエスの前を行く者も後に従う者も叫んだ。</p> <p>「ダビデの子にホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように。いと高きところにホサナ。」</p>	<p>8 多くの人が自分の服を道に敷き、また、ほかの人々は野原から葉の付いた枝を切って来て道に敷いた。</p> <p>9 そして、前を行く者も後に従う者も叫んだ。</p> <p>「ホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように。」</p> <p>10 我らの父ダビデの来るべき国に、祝福があるように。いと高きところにホサナ。」</p>	<p>36 イエスが進んで行かれると、人々は自分の服を道に敷いた。</p> <p>37 イエスがオリーブ山の下り坂にさしかかるとき、弟子の群衆はこぞって、自分の見たあらゆる奇跡のことで喜び、声高らかに神を賛美し始めた。</p> <p>38 「主の名によって来られる方、王に、祝福があるように。天には平和、いと高きところには栄光。」</p>	<p>12 その翌日、祭りに来ていた大勢の群衆は、イエスがエルサレムに来られると聞き、</p> <p>13 なつめやしの枝を持って迎えに出た。そして、叫び続けた。</p> <p>「ホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように、イスラエルの王に。」</p> <p>14 イエスはろばの子を見つけて、お乗りになった。次のように書いてあるとおりにである。</p> <p>15 「シオンの娘よ、恐れるな。見よ、お前の王がおいでになる、ろばの子に乗って。」</p>
			<p>16 弟子たちは最初これらのことが分からなかったが、イエスが栄光を受けられたとき、それがイエスについて書かれたものであり、人々がそのとおりにイエスにしたということ思い出した。</p> <p>17 イエスがラザロを墓から呼び出して、死者の中からよみがえらせたとき一緒にいた群衆は、その証しをしていた。</p> <p>18 群衆がイエスを出迎えたのも、イエスがこのようなしるしをなさったと聞いていたからである。</p>
<p>10 イエスがエルサレムに入られると、都中の者が、「いったい、これはどういう人だ」と言って騒いだ。</p> <p>11 そこで群衆は、「この方は、ガリラヤのナザレから出た預言者イエスだ」と言った。</p>		<p>39 すると、ファリサイ派のある人々が、群衆の中からイエスに向かって、「先生、お弟子たちを叱ってください」と言った。</p> <p>40 イエスはお答えになった。「言うておくが、もしこの人たちが黙れば、石が叫び出す。」</p> <p>41 エルサレムに近づき、都が見えたとき、イエスはその都のために泣いて、</p> <p>42 言われた。「もしこの日に、お前も平和への道をわきまえていたなら……。しかし今は、それがお前には見えない。</p> <p>43 やがて時が来て、敵が周りに堡壘を築き、お前を取り巻いて四方から攻め寄せ、</p> <p>44 お前とそこにいるお前の子らを地にたたきつけ、お前の中の石を残らず崩してしまおうだろう。それは、神の訪れてくださる時をわきまえなかったからである。」</p>	<p>19 そこで、ファリサイ派の人々は互いに言った。「見よ、何をしても無駄だ。世をあげてあの男について行ったではないか。」</p>
	<p>11 こうして、イエスはエルサレムに着いて、神殿の境内に入り、辺りの様子を見て回った後、もはや夕方になったので、十二人を連れてベタニアへ出て行かれた。</p>		